2026 年 10 月

マンスリー・ハイライト　拝啓社長殿

マネジメントのための経営財務情報

テーマ：AI 導入を「成果」につなげる 5 つの領域と 5 つのステップ

生成 AI の活用は、個人の業務効率化から、売上拡大・収益構造の改善・固定費削減につながる経営変革の段階へ移りつつあります。成果を生み出すには、ビジネス・データ・テクノロジー・ピープル・ガバナンスの 5 領域を一体で捉え、構想から定着までを計画的に進めることが重要です。本稿では、経営者が確認すべき 3 つの視点と、成果につなげる 5 つのステップを解説します。

成果を左右する 5 つの領域

「PoC（概念実証）は実施したが、全社展開に進めない」といった相談の背景には、AI を個別のツール導入として捉えてしまうことがあります。AI の効果は、業務、データ、システム、人材、リスク管理の仕組みがそろって初めて引き出されるため、次の 5 領域を一体で考えることが欠かせません。

領域	内容
ビジネス	事業・業務モデルの変革、プロセスの最適化、収益・コスト構造の改革
データ	データ基盤と連携の整備、データガバナンス、アナリティクスの活用
テクノロジー	クラウド・AI／ML（機械学習）基盤の整備、システムの統合・連携
ピープル	組織・人材の育成、AI リテラシーの向上、カルチャーの変革
ガバナンス	ガバナンスの設計、リスク・コンプライアンス、セキュリティ・品質管理

特に見落とされやすいのがピープルとガバナンスです。AI の出力の使い方や、誤り・情報漏えいへの責任体制が整って初めて、活用は組織全体に広がります。

構想から定着までの 5 つのステップ

① **Discover（現状の可視化・課題特定）**：現状を評価し、AI で効果が見込める業務を洗い出す
② **Design（あるべき姿の設計）**：AI を組み込んだオペレーティングモデルと実行計画を策定
③ **Build（構築・実装）**：ソリューション導入とデータ基盤の整備を行い、PoC を実装
④ **Scale（全社・グループ展開）**：成果の出た取り組みを標準化し、横展開
⑤ **Realize（成果の創出・定着）**：効果を測定し、改善を重ねて高度化するサイクルを確立

PoC で終わらせず、Scale と Realize まで最初から計画に組み込むことが成果を分けます。

経営として確認したい 3 つの視点

① 「どの業務で AI を使うか」を事業の成果から考えているか
② IT 部門任せにせず、5 つの領域を横断して見る体制があるか
③ 利用者数ではなく収益・コスト構造の変化で成果を測る指標を決めているか

お見逃しなく！

AI 活用を成果につなげるには、構想から効果測定までを一連の取り組みとして設計することが重要です。まずは自社の経営課題と対象業務を特定し、期待する成果と測定指標を明確にすることが出発点となります。

© Grant Thornton Japan. All rights reserved.